

災害伝承碑紹介動画の制作と防災学習における活用について

和歌山県土砂災害啓発センター
那智勝浦町

○稲田健・二有田貴洋・岸畑明宏・筒井和男・森要
佐藤純子

1. はじめに

和歌山県では、平成 23 年の紀伊半島大水害を契機として和歌山県土砂災害啓発センター（以下、「啓発センター」）を設置し、土砂災害に関する調査研究及び紀伊半島大水害をはじめとする災害記録や教訓を後世に継承するため、土砂災害に関する啓発活動に取り組んでいる。

啓発活動では地元の小学校と連携・協働して児童たちが「自分事として考え・行動できる」ことを目標に、防災学習に取り組んでいる。将来の防災の担い手となる児童が知識を身に付けるだけでなく、児童から家庭へ、さらには地域へと防災意識が普及する効果が期待できるため、啓発センターにおける活動の柱の一つとして積極的に取り組むとともに、地域の特性を取り入れた防災学習の教材作りにも力を入れている。

和歌山県では過去に明治 22 年・昭和 28 年・昭和 33 年・平成 23 年と歴史的な大規模土砂災害があり、各地に石碑等の災害伝承碑や災害記録が残っている。

しかし、全国的に広い範囲で被害が発生した平成 30 年 7 月豪雨で多くの犠牲者を出した広島県のある地域では、100 年以上前に起きた水害を伝える石碑があったものの、関心を持って碑文を読んでいなかったという住民の声が聞かれる¹⁾など、災害伝承碑等が十分に活かされていないのが現状である。

そこで、過去に土砂災害等の被害を受けた和歌山県西牟婁地域の市町（図-1）における災害伝承碑等に関する調査結果²⁾³⁾をもとに、和歌山県 PR キャラクターである「きいちゃん」（写真-1）を用いた災害伝承碑等を紹介する動画を制作した。防災学習や講演会で用いて、地域の防災意識向上を図った事例について報告する。



図-1 西牟婁地域
調査箇所位置図



写真-1 和歌山県 PR
キャラクター
「きいちゃん」

2. 災害伝承碑紹介動画の制作

2.1 災害伝承碑紹介動画のシナリオ

教室で防災教育を受けるきいちゃんが、土砂災害の危険性はわかるが、どこか自分には無関係であると感じている。微睡むきいちゃんのもとにご先祖様が現れ、過去の災害について石碑等を作って後世に伝える努力をし

てきたが、現代を生きるきいちゃんにきちんと伝わっていないことを嘆く。それを受け、きいちゃんは過去の災害や災害伝承碑等に興味を持ち、西牟婁地域を調べ、災害伝承碑等を巡りながら過去の災害について学んでいくといったシナリオになっている（写真-2）。



写真-2 災害伝承碑を紹介するきいちゃん

2.2 撮影機材及び編集ソフト等

使用したカメラは SONY のミラーレス一眼 α7 III、レンズは崩壊跡地を明確に撮影できるよう、中距離望遠レンズである TAMURON 28-75mm F/2.8 Di III RXD を使用した。また、動画編集ソフトは Wondershare の filmora バージョン 11.3、また音声読み上げソフトとして、PIXIV FANBOX の VOICEVOX を使用し、登場するキャラクターに音声をつけることで視聴する人が見やすい動画となるものとした。表-1 に動画作成に使用した機材等の詳細を記載する。

表-1 動画作成に使用した機材等

	会社名	製品名
カメラ	ソニー株式会社	α7 III
レンズ	株式会社タムロン	28-75mm F/2.8 Di III RXD
三脚	ハクバ写真産業株式会社	HK-836B HAKUBA
編集PC	株式会社サードウェーブ	GALLERIA GCL1650TGF
動画編集ソフト	Wondershare	Filmoraバージョン11.3
音声読み上げソフト	PIXIV FANBOX	VOICEVOX

3. 災害伝承碑紹介動画の活用事例

3.1 防災学習における活用

令和 4 年 10 月に田辺市立大坊小学校において 4・5・6 年生 12 名を対象とした防災学習を実施した。実施にあたり、WEB 会議システムを用いて国土交通省国土技術政策総合研究所のご協力により、土砂災害に関する一般知識について説明してもらった。また、田辺市が甚大な被害を受けた紀伊半島大水害の説明、そして、災害伝承碑紹介動画の上映を県から行った（写真-3）。



写真-3 防災学習の様子

3.2 地域講演会における活用

令和5年2月に和歌山県情報交流センタービック・ユ一において、地域住民約90名を対象とした地域講演会を開催した。第7回目となる今回の講演会では「自主防災力を高めるために」と題し、2名の講師の方からご講演いただくとともに、災害伝承碑紹介動画の上映も行った。なお、講演会は地域住民が土砂災害について考え、いざという時の安全かつ迅速な避難に役立てることを目的として、平成29年より県内各地で地域講演会を開催している（写真-4）。



写真-4 地域講演会の様子

4. 災害伝承碑紹介動画の効果

大坊小学校における防災学習後、児童からの感想文では、「自分が生まれた年くらいに紀伊半島大水害という大きな災害があると知った。」「災害からどのように身を守っていけばよいか家族と話し合っていきたい。」「改めてもう一度家族と避難場所を決めようと思う。」「といった記述があった。

また、地域講演会のアンケート調査では、災害伝承碑動画について、記入いただいた79%の方が「満足」と回答があり、中には、70代以上の方から「これを機会に地域の皆さんと土砂災害について勉強する場を持ち話し合いをしていきたいと思う。」といった意見があった。

以上のことから、地域の子どもから大人へ、さらには大人から子どもへ防災意識が普及していくことが期待できる。

5. その他の活用事例

災害伝承碑紹介動画は西牟婁地域の方だけでなく、より多くの人に視聴し、防災意識を高めてもらうために、現在YouTubeの啓発センター公式チャンネルで公開している（写真-5）当チャンネルでは啓発センターの紹介動

画や、平成23年紀伊半島大水害で被災された久保栄子さんの紙芝居の動画、360°カメラで和歌山県内の土砂災害警戒区域を確認することができる動画等、土砂災害に関する動画を投稿している。



写真-5 YouTubeサムネイル「きいちゃんと学ぶ 後世へ伝える災害の記憶-西牟婁編-」と二次元コード

6. おわりに

災害伝承碑紹介動画は今後も防災学習と合わせて活用する予定である。地元で発生した過去の災害を学び、先人が現代を生きる我々に残した災害の記憶を知ること、防災学習で学んだ土砂災害をより自分事として考え、ひいては地域の防災意識を高めることに期待できる。

今後は和歌山県内の他の地域の過去の災害や災害伝承碑等の調査及び動画制作を行い、地域の情報を取り入れた教材作りに取り組む予定である。

謝辞：撮影のご協力をいただきました、那智勝浦町立市野々小学校の皆様にお大変お世話になりましたことを、この場を借りて感謝の意を表します。

参考文献

- 1)朝日新聞デジタル
<https://www.asahi.com/articles/ASL7Z5V2BL7ZTIP E03N.html>
 参照 2023-3-6
- 2)宮崎徳生・筒井和男・岸畑明宏・坂口隆紀・木下篤彦：後世に伝える過去の山地災害に関する調査と防災学習の取り組みについて、第61回治山研究発表会抄録集、p23-24、2021
- 3)国土交通省近畿地方整備局大規模土砂災害対策技術センター：60年毎に繰り返される紀伊半島の歴史的な大規模土砂災害、
<https://www.kkr.mlit.go.jp/kiisankei/center/img/saigaishi.pdf>,
 参照 2023-3-6